令和４年２月 19 日　発行

中井だより

中井やまゆり園

再命名（レトロニウム）

星寮長　菅野　眞一

４月より、佐藤の後任として着任いたしました生活第三課星寮の菅野と申します。園長の「かんの」と漢字表記は同じですが、「すがの」と読みます。よろしくお願いいたします。

中井やまゆり園は３年ぶり２度目の勤務となります。前回は、生活第三課空寮で５年間（主任・寮長）支援にあたらせていただきました。その間、星寮会議の際に応援職員としてホーム内の見守りをしたこともあり、何かしらの縁を感じています。当時とは利用者構成が変わってきており、当園のなかでも多様性に富んでいるのではないかと思っています。様々な利用者の方、それぞれに適した個別の支援の在り方と集団生活とのバランスをどうするか、どう組み立てるか、私たち職員には求められていると日々感じています。

さて、話は変わりますが、新しい物事がもたらされ、当たり前だったことがそうではなくなった際、旧来の物や状況などに改めて名前が付けられることがあり、「再命名（レトロニウム）」というそうです。

例えば、カラーテレビの登場による白黒テレビ、携帯電話に対する固定電話、デジタルカメラに対するフイルムカメラ、ハイブリッド車などからガソリン車、などがあります。

また、コロナ禍に於いては、イベントなどが「無観客」となることが増え、区別するために「有観客」が使われるようになりました。「面会」についても、病院や高齢者施設などで「リモート面会」とするところが多くなり、当園でも「間接的な面会」とせざるを得なくなりました。「緊急事態宣言」の解除により、「直接的な面会」となり、約２年振りに御家族・後見人の皆様とお会いになった利用者の方の笑顔や喜ばれる様子は印象的でした。

しかし、オミクロン株の感染拡大により「まん延防止等重点措置」がとられ、再び「間接的な面会」となってしまいました。

昔から、一月は行く、二月は逃げる、三月は去ると言われています。新型コロナウイルス感染症が１日でも早く「逃げて」「去り」、そして終息し「間接的な面会」や「直接的な面会」という言葉ではなく、単に「面会」という言葉だけを御家族・後見人の皆様に対して使える日々、制限のない「面会」ができる日々が来ることを切に願います。

引き続き、利用者の皆様には不自由な生活でご不便をおかけしますが、少しでも「四季を感じる」「潤いのある」生活になるよう、寮職員はじめ、関係各セクションと連携し取り組んでいきたいと思います。御家族・後見人の皆様のご理解とご協力のほどよろしくお願いします。